

平成28年度 新潟市外国語活動部 活動報告

部長 吉田 義子

1 研究主題

2020年に向けた さらなる授業改善と小中連携（1年次）



2 研究の概要

研究主題を具現するために、以下の二点について研修を進めた。

- ・前年度までの「思いをもって、コミュニケーションを図ろうとする授業づくり」を踏襲し、さらなる指導法の開発や蓄積を行う。また、「英語によるコミュニケーションの機会を増やす授業」、「子どもが自分で言葉を選択する授業」の一端を明らかにする。【授業改善】
- ・小中連携につながる「小小連携」に重点を置き、指導時数や学級担任やALTの役割のあり方、指導法のあり方、校内研修のあり方などについて、継続的、具体的に協議する。【環境整備】

3 研究の実際

①「現行の外国語活動の充実」について【授業改善に関すること】

- Aブロック：5年「What's this? クイズ大会をしよう」(Hi, friends!1 Lesson7)

授業者：濁川小学校 教諭 近藤 辰雄

目指す姿は、英語を用いて出題者からヒントを引き出したり、解答者にヒントを示したりするなど、正解するまで意欲的にコミュニケーションを図ろうとする姿である。授業者は、双方向のコミュニケーションを多く生むため、解答者が欲しいヒントを要求できたり、正解するまでクイズを続けられたりするルールを設定した。また、コミュニケーション場面を増やすために、既習表現の活用場面を意図的に設定した。指導者からは、単元のゴールが明確なこと、自己決定場面など生徒指導の視点も取り入れていること、担任ならではの教材開発、既習表現の活用場面の意図的な設定などが評価された。

- Bブロック：6年「紹介したい時刻を友達に伝えよう」(Hi, friends!2 Lesson6)

授業者：新津第三小学校 教諭 五十嵐 規子

目指す姿は、英語を用いて、進んで自分の生活を紹介したり、時刻や行動を尋ねたりする姿である。授業者は、より多くのコミュニケーション場面をつくるために、発表者1名だけが自分の行動を英語で示すのではなく、他の発表者にも同時刻の自身の行動を提示させた。また、時刻が明らかになった後、発表者が紹介した時刻における聞き手の行動を尋ねる場面を設定した。指導者からは、日々の学級経営が素晴らしいこと、魅力的な話題であり、複数のインフォメーション・ギャップが設定されていたこと、一人の発表に他の全員の発表者と聞き手が関わっていたことが評価された。

②「小中連携・小小連携の進展」について【環境整備に関すること】

小中連携・小小連携の必要性を学ぶために、中学校区の小学校同士でグループを作り、小小連携について現状を把握する情報交換を2度行った。参加者から、「校内でやるべきことがたくさん見付かった」、「中学校区で足並みを揃える大切さを改めて感じた」、「他校の取組が参考になった」などの声を聞くことができた。

4 成果と今後の課題

- (1)「現行の外国語活動（5・6年）の充実」について

両実践ともねらいを十分に達した子どもの姿が見られ、働き掛けが有効であった。特に、①コミュニケーションの機会を増やすために、既習表現の活用場面を意図的に設定したこと、②単元を通じてコミュニケーション活動に慣れ親しませたことが今後の実践にも使える大きな成果と言える。

- (2)「小中連携・小小連携の進展」について

今年度は情報交換レベルで終わったが、参加者の問題意識を高めることができた。次年度は、より具体的な取組について検討していきたい。